

今月の星空

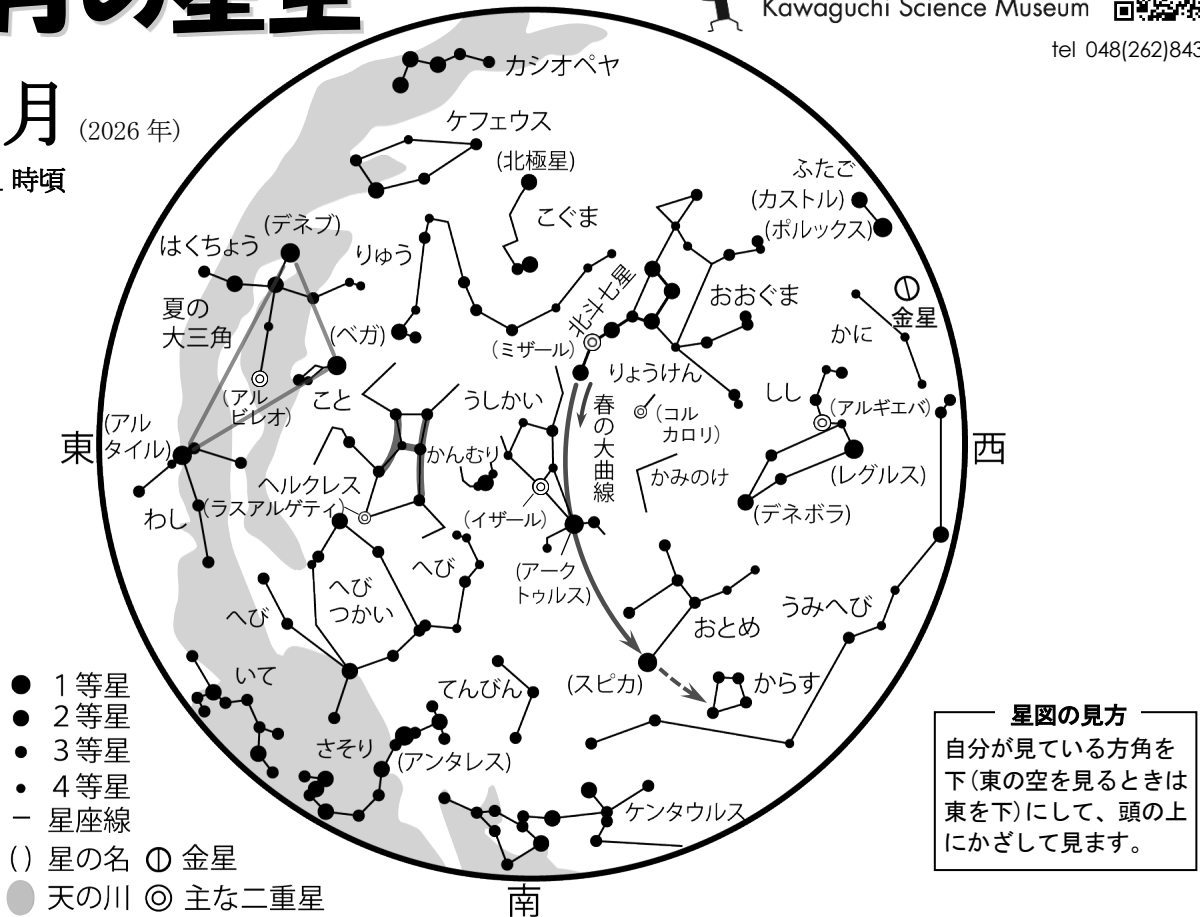


川口市立科学館
Kawaguchi Science Museum



tel 048(262)8431

6月 (2026年)
中旬 21 時頃



星図の見方
自分が見ている方向を下(東の空を見るときは東を下)にして、頭の上にかざして見ます。

月 齢 ① 下弦 8日、● 新月 15日、● 上弦 22日、○ 満月 30日

惑星情報 水星 日の入り後 西(おうし→ふたご座 -1→ 1等)※中旬まで

金星 日の入り後 西(ふたご→かに→しし座 -4等) 火星 日の出前 東(おひつじ→おうし座 1等)

木星 日の入り後 西(ふたご→かに座 -2等) 土星 日の出前 東→南東(くじら→うお座 1等)

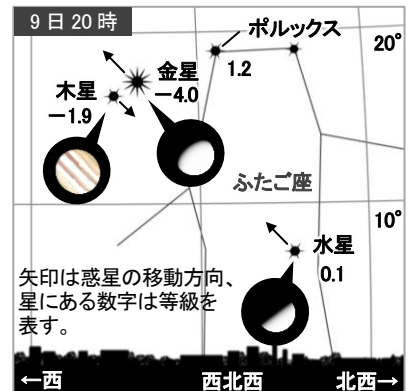
★梅雨の夜空は春から夏へ～うしかい座とヘルクレス座～

21日は1年で太陽が最も高く昇る夏至。太陽が最も低くなる冬至(12月22日頃)から半年が経ち、1年の折り返しです。星空に目を向けると、南の空高くに春の星座のうしかい座が昇り、オレンジ色に輝くアークトゥルスが目立ちます。その東には、夏の星座のヘルクレス座が昇ってきています。これはギリシャ神話の英雄ヘラクレス(星座名は「ヘルクレス」)の姿であり、夏の星座の中では最も大きな星座(全天第5位)です。目立つ星座ではありませんが、3~4等の星で作るアルファベットのHの形が目印です。なお、ヘラクレスにまつわる神話である12の冒険(ヘラクレスに課せられた12の試練)は、様々な星座と関連があります。しし座はネメアの森の獅子退治(第1の冒険)、うみへび座は9つの頭をもつヒドラ退治(第2の冒険)にそれぞれ登場する怪物です。夜空でもヘラクレスの登場とともに西へと退散しているかのようです。また、黄金のりんご探し(第11の冒険)に登場する天を担ぐ巨人アトラスは、うしかい座、りんごの木を守る竜は、りゅう座とされています(※うしかい、りゅうの姿には諸説あり)。

★金星と木星の大接近と見ごろの水星

日の入り後の西の空で3つの惑星を見るチャンスです。右図のとおり、上旬には金星と木星が接近(9日最接近…満月約3つ分)して、少し離れたところに水星が位置しています。これらの惑星は日ごとに位置関係が変わります。これまで高い位置にあった木星は高度が下がる一方で、金星は高度が上がります。この2つの惑星がすれ違うのが9日前後です。水星も中旬にかけて高度が上がりますが、位置や明るさの変化が大きいので、下旬になると観察が難しくなります。また、地球よりも内側の軌道をもつ水星と金星は、太陽と地球との位置関係から、満ち欠けして見え、望遠鏡で観察する*とその様子がわかります(右図参照)。

※夕方の観察では、目を傷める危険があるため望遠鏡等で太陽を見ないように注意しましょう。



国立天文台及びStellaNavigator12を元に作成

図 9日 20時の惑星の位置と望遠鏡で見た惑星のイメージ